

小6算数 学習のすすめかた（後期）

□ 授業を受けるうえでの注意点

〔授業前〕 ・ 宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。

- ・ テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
- ・ 携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。（緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください）

〔授業中〕 ・ 休けい時間は取らないので、お手洗いにいきたくなくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに申告してください。

- ・ 飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、食べ物にはガムやアメもふくめ授業中には食べないようにしてください。（トローチやのど飴は申告があれば許可します）
- ・ 授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。（私語、不規則発言、机へのつつし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など）
- ・ 途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。（問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません）また、授業後に解き直しがしやすいように、ノートをしっかりとりましょう。

□ 毎回の宿題について ※ 第1回～第8回（第9回以降は形式が変わるため別途指示をします）

【全員共通】

- (1) 授業で実施した問題 ×問再実施 0.5h～1h
- (2) 基本問題の残り 全問を実施 0.5h～1h
- (3) 計算日記 1回6ページをなるべく1日1ページ(制限時間15分～20分)ずつ実施 1.5h～3h
- (4) 確認テスト 添削用紙へ全問を実施 0.5h～1h
- (5) トレーニング 全問を実施（次回ぶんの予習）0.5h～1h

※ すべての課題について、「解く」「○つけ」「間違いの直し」「自力で解けるまで」実施しましょう。

- ・ できるだけ途中式・考えかたを残しましょう。
- ・ 間違いの直しは、自分の途中式を見てミスしているところを直してください。
- ・ 確認テストは、このあとに記載の「確認テストの進めかた」にしたがって実施しましょう。

※ 宿題の提出が無いときは個別に声がけをします。

→ どうしてもやり切れない場合は宿題量を調整しますので、相談してください。

※ (1)(2)(5)は宿題提出用ノート、(3)は添削用紙、(4)は計算日記用ノートへ実施してください。

※ 新演習の宿題が優先ですが、各自進めている教材(塾技など)がある場合はあわせて進めていきましょう。

【任意課題】 アタックテスト偏差値60～が目標で余力がある場合

(6) 練習問題の残り 全問を実施 1h～2h

※ 全員共通の宿題をすべて完了したうえで、宿題用ノートに実施してください。

※ 解説を見ても理解できない問題の解き直しはとばしてもかまいません。

□ 確認テストの実施のしかた

① 配布された添削用紙を、たてに半分で折る。（真ん中で区切る）

② 実施日・名前を書く。

③ 時間をはかり、途中式や筆算をできる限り残しながら全問を実施する。

- ※ ①で折った折り目を目安に、途中式や答えを横ではなく、縦(たて)に書き進めてください。
- ※ スペースが足りない場合は、裏面を使用してもかまいません。
- ※ 採点者に伝わる途中式を書くことを意識してください。

④ 実施にかかった時間を添削用紙の左上へメモをする。

⑤ 解説冊子を確認して、○つけをする。

⑥ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正(直し)やメモをする。

- ※ 解説冊子や授業用ノートを確認しても理解できない問題は、「わからない内容」をなるべく具体的にメモしてとばしてください。（解説の式や答えの丸写しは不要です）

⑦ ⑥で理解をした問題を、余白へもう一度解く。（自力で正解するまで解きなおす）

【確認テストの実施例】 ※ 確認テストの提出は解答用紙のみでかまいません。（問題用紙の提出は不要です）

添削問題解答用紙 「確認テスト」 第 回	
時間をはかって実施し、 かかった時間を左上あたりに記入してください。	上欄の記入は自分の氏名のみでかまいません。
①(1) . . .	③(1) . . .
②(1) . . .	④(1) . . .
※ 全てを解き終わったら、解答を確認して○つけをしてください。	○つけをしたあと、×問は解説を確認したうえで <u>もう一度解き直し</u> をしてください。
※ ×問は解説を確認したあと、 <u>「何が違っていたかの直し」</u> をメモで残しましょう。	

□ 過去問の実施について

別途配布の「過去問の進めかた」のプリントを参考に実施してください。

・ 実施は難易度が低めの学校から、1校につき3回ぶん以上を目安に計画をしてください。

・ 12月以降に実施した過去問の×問の復習を指示する予定です。

小6理科 学習のすすめかた（後期）

□ 授業を受けるうえでの注意点

〔授業前〕 ・ 宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。

- ・ テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
- ・ 携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。
（緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください）

〔授業中〕 ・ 休けい時間は取らないので、お手洗いにいきたくなくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに申告してください。

- ・ 飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、食べ物にはガムやアメもふくめ授業中には食べないようにしてください。（トローチやのど飴は申告があれば許可します）
- ・ 授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。
（私語、不規則発言、机へのつつぶし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など）
- ・ 途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。
（問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません）
また、授業後に解き直しがしやすいように、ノートをしっかりとりました。

□ 毎回の宿題（全員共通） ※ 第1回～第8回（第9回以降は形式が変わるため別途指示をします）

- (1) 授業で実施した問題 ×問再実施
(2) 基本問題 全問を実施
(3) 確認テスト 全問を実施
(4) コンプリーション 週に2単元ずつ復習 ※ チェックテストを実施します。

※ すべての課題について、「解く」「○つけ」「間違いの直し」「自力で解けるまで」実施しましょう。

- ・ 計算問題はできるだけ途中式を残してください。
- ・ 間違いの直しは、単なる暗記をのぞき「なぜその答えになるか」をメモしましょう。
- ・ 確認テストは、このあとに記載の「確認テストの進めかた」にしたがって実施してください。

※ (1)(2)は宿題提出用ノート、(3)は確認テストの用紙へ直接書きこみで実施してください。
(4)はとくに提出を求めませんが、チェックテストで合格することを目指して復習してください。

※ 宿題の提出が無いときは個別に声がけをします。（事情があり実施できない場合は事前に相談してください）

□ コンプリーションチェックテストについて

範囲分の2単元から、それぞれ1ページずつを指定して実施します。

- ・ 初回は第1単元(P2～P5)・第2単元(P6～P9)が範囲です。（以降も順番に2単元ずつ実施）
- ・ 1ページのうち2問以上ミスで、解き直しとプリントの残りの問題の実施が追加課題になります。
（追加課題の判定は単元ごとにおこないます）

※ 追加課題の提出が翌週までにない場合、授業後に居残り実施を指示します。
（提出を忘れてしまいそうな人は、当日授業後に居残り実施・提出しましょう）

□ 確認テストの実施のしかた

- ① 名前を書く。
- ② 計算問題や条件整理が必要な問題は確認テストの余白へ途中式や図を書きながら解き、
解答も確認テストへ直接書きこみながら解き進める。
- ③ 解説冊子を確認して、○つけをする。
- ④ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正(直し)やメモをする。
- ⑤ ④で理解をした問題を、余白へもう一度解く。（自力で正解するまで解きなおす）

※ 計算問題や条件整理が必要な問題は、用紙の余白へ入試担当者(添削課題は先生)に
伝わるような途中式・図を残すことを心がけ、少なくとも答えは*はいねい*に書きましょう。

□ 「間違い直し」と「解き直し」の徹底について

- ・ 「間違い直し」は、色ペン（色鉛筆）で間違えたところの修正をおこないましょう。

※ 条件整理や計算が必要な問題は、「どのように解くか」をできるだけ言葉や式を書き残しながら
答えまでの道筋をメモしましょう。

※ 記号問題について、理由を考える必要がある問題は「なぜその答えになるか」の根拠をメモで残しましょう。

- ・ 「解き直し」は、1回目に解いたところとは別の場所に、「解き直し」「2回目」などと書いてから
自力で解けるまで解きなおしてください。

□ 過去問の実施について

別途配布の「過去問の進めかた」のプリントを参考に実施してください。

- ・ 実施は難易度が低めの学校から、1校につき3回ぶん以上を目安に計画をしてください。
- ・ 12月以降に実施した過去問の×問の復習を指示する予定です。

□ 追加教材の実施について

さらに理科の力をつけていきたい場合は、塾技(市販教材)を実施してください。

- ・ 実施する場合は専用のノートをつくり、毎週提出をしましょう。
- ・ 入試までに1周＆×問の2周目(～自力で正解できるまで)の完了を目指してください。

算数・理科 過去問の進めかた

【1】どれくらいの年度ぶん過去問演習を実施すればよいか

- 志望に入る学校の過去問は最低3年度分を実施するのが理想です。
(学校ごとに出題のされかたや形式が異なるため)
ただし、明らかに合格点を取れる学校については、1回または2回でもかまいません。

※ 自学で進める内容が多くなるため、解説が詳しい「声の教育社」発刊のものを購入してください。

【2】志望校の選び方について (参考)

- ① まず、第1志望と抑えとなりうる学校を決めましょう。
→ 「絶対に私立」という場合には、抑えの学校については厳しく考える必要があります。
- ② ①をふまえた上で、日程等を考えながらそれ以外の学校の選定をしていきます。
→ 合格の可能性がある併願校は多いほうが、気持ちの余裕にもつながります。
→ 東京・神奈川入試(2/1～)が本命になる場合は、1月中に入試が行われる、埼玉・千葉・茨城の学校の入試からスタートすることがおすすめですので、これらの学校も検討していきましょう。

【3】過去問実施の計画について

- 過去問演習は解き直しを通じた実力アップも狙いの1つになります。
したがって、間違えた問題を十分に復習する時間を取ることも大切です。
やりっぱなしでは効果が薄くなるので、解き直しに必要な時間も加味して計画的に進めていきましょう。

(目安の計画) 12月上旬ころまでに志望校の過去問(3年度分)終了

↓
実施した過去問の間違った問題を再度解きなおす

↓
上記が終了次第、過去問の過去年度をさらに掘り下げて実施をする

- 9月1日周日から週に1校ぶんずつ実施をする場合、12月上旬までは12～13週程度しかありません。
そのため、志望校が多い場合は、夏休み・祝日等も利用して計画的に実施をしていく必要があります。
ご家庭で相談し、週ごとに「〇月〇週目は〇〇中学の〇年度を実施する」などの計画を立てましょう。
- ふつう偏差値の高い学校の問題のほうが難しいため、偏差値が低い学校の過去問から実施をしてください。
なお、実力との差が大きすぎる学校の過去問は実施をしても実力向上の助けにはならないので、実施の順番は特に慎重に計画をするようにしましょう。

【4】過去問の実施について

- 合否ラインとの差も確認したい場合は、4科をなるべく一気に実施をしましょう。
科目別に強化をはかりたいときは、特定の科目だけ多くこなすなどのやりかたもあります。
- 答えを写して○にしたり答えを書きなおして○にしたりすることは厳禁です。
本当に意味がありません。
自分の現在地・問題点・対応策を考えることができなくなり、受かるものも受からなくなります。
- はじめのうちの点数はそこまで気にする必要ありません。
算数で30点しか取れない…などは、わりと普通にあります。
だんだんと対応の仕方がわかるようになり、後期の授業・課題実施の中で点数が取れるようになっていくので、冷静に、かつ1つずつ確実に課題点を解決していきましょう。

《実施の流れ》

- ① 過去問専用(全科目)のノートを作る (A4ノートがおすすめです)
- ② 解答用紙をコピーする (できれば問題用紙も)
→ 実際にテストでする動き(書き込みなど)を意識して進めましょう。
- ③ 制限時間マイナス1～10分を目安にタイマーを設定する
→ 短い時間感覚に慣れておく方が、本番での確実性につながります。
- ④ 準備ができれば演習を開始
→ できれば、時間はおうちの人に管理してもらいましょう。
→ 設定した時間は絶対に超えず、演習を終了しましょう。
- ⑤ すぐに採点
→ できれば、おうちの人に採点をしてもらいましょう。
- ⑥ 解答用紙を過去問ノートに貼りつける
- ⑦ 解答用紙を貼りつけた次のページに解き直しをする

- 1) 時間があれば取れそうな問題について、答えを見ずに再実施をする
- 2) 解説を見てわかる問題について、理解をできたら何も見ずに再実施をする。
- 3) 印分けをして、問題番号に印をつける。
(時間があれば解けた:△ 解説を見て自力で解き直せる:× 捨て問:☆ など)
- 4) テストの反省点を書き、繰り返さないための具体的な対策を考えノートに書いておく。

※ 取捨選択がとても重要です。実施時・解き直し時いずれも数問は捨て問ができてしまっにかまいません。

→ 時間効率をよくするため、解説のはじめから最後までわからない問題は「捨て問」としてとばしましょう。
捨て問が多くなりすぎてしまう場合は、過去問演習よりも地力強化の勉強を優先しましょう。

※ 時事問題の解き直しはさらっと(解説を読むだけ)で構いません。

※ 採点者が読めない字は全て×になります。
本番では普段のクセが出てしまうものなので、今まで指摘を受けたことがある人は×になる可能性のある字は一切書かない、という覚悟を決めましょう。
答えは、「入学したい」という意思を表現する場でもあります。

※ 計算ミスが多い人はなるべく筆算を書く・簡単に検算する意識を、問題文の読み落としが多い人は問題文に線を引きながら読むなど工夫をしましょう。

《記述採点のポイント》

- 記述を採点するときは、正答となる「キーワード」が書けているかを見るようにしましょう。

例) 日本に四季がある理由

→ 地球が地軸を傾けながら太陽のまわりを公転しているから。

「地軸」「公転」がキーワードで、片方が書けている場合は△、厳しくつけるなら×にしましょう。
キーワードが入っていれば、細かな表現の違いはあっても○でかまいません。